

経済・金融 フラッシュ

【1月米個人所得・消費支出】

堅調な所得の伸びを背景に、消費は市場予想を上回る伸び

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 所得、消費、価格指数ともに市場予想を上回る伸び

2月26日、米商務省の経済分析局（BEA）は1月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得（名目値）は、前月比+0.5%（前月：+0.3%）となり、前月から伸びが加速し、市場予想（Bloomberg集計の中央値、以下同様）の+0.4%も上回った。一方、個人消費支出（名目値）は、前月比+0.5%（前月改定値：+0.1%）と、こちらも前月から伸びが加速、市場予想（+0.3%）も上回った（図表1）。さらに、価格変動の影響を除いた実質個人消費支出も、前月比+0.4%（前月改定値：+0.2%）と前月、市場予想（+0.3%も）を上回った（図表5）。貯蓄率¹は5.2%（前月改定値：5.2%）と前月に一致した。

価格指数は、総合指数が前月比+0.1%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じたほか、市場予想（横這い）も上回った。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は、前月比+0.3%（前月改定値：+0.1%）となり前月から上昇、市場予想（+0.2%）も上回った（図表6）。なお、前年同月比では、総合指数が+1.3%（前月改定値：+0.7%）、コア指数が+1.7%（前月改定値：+1.5%）となった（図表7）。

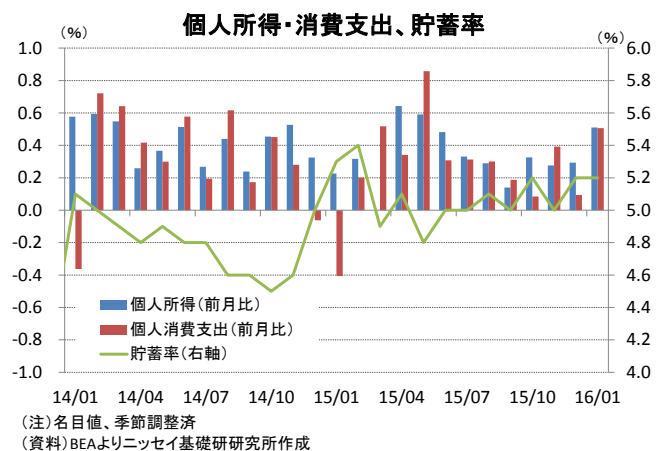
2. 結果の評価: 所得の伸びを背景に、消費は前月から大幅に加速

個人消費支出（前月比）は、所得の堅調な伸びに支えられて、前月の低調な伸びから加速した。前月は自動車・自動車部品等の落ち込みもあって、財消費がマイナスとなっていたが、1月に再び加速したことから、12月の鈍化が一時的である可能性が高まった。

さらに、所得対比でみると、貯蓄率が前月と変わらず5.2%で高止まりしており、依然として消費は余力を残していると言えよう。

16年に入って、米国の資本市場は不安定な

（図表1）



¹ 可処分所得に対する貯蓄（可処分所得－個人支出）の比率。

状況が続いているものの、消費には未だその悪影響はみられていない。

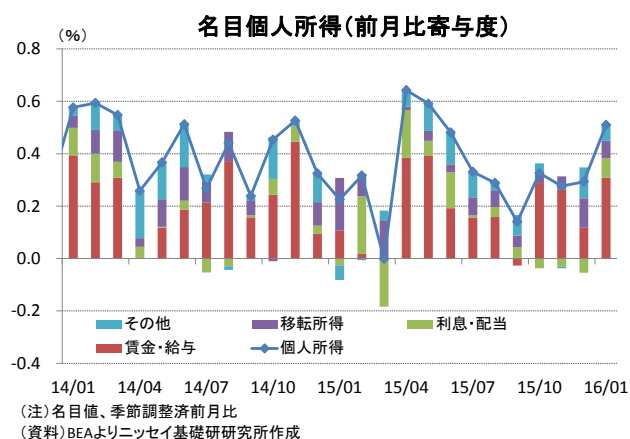
一方、物価は前月比、前年同月比ともに前月から加速し、市場予想も上回ったものの、原油相場が足元 30 ドル台前半と前年に比べて 3 割超の下落幅で推移していることに加え、昨年は 5 月末にかけて 60 ドル近辺まで上昇していたことを考慮すると、総合指数の前年同月比が上昇を続けることは難しいとみられる。さらに、コア指数についても足元で時間当たり賃金の伸びに加速がみられているものの、ドル高を背景に輸入物価がコア指数を押下げる方向に働くことから、コア指数の上昇も緩やかとみられ、F R B の政策目標 (2%) の達成時期が見通せない状況が続こう。

3. 所得動向:賃金・給与の伸びが加速

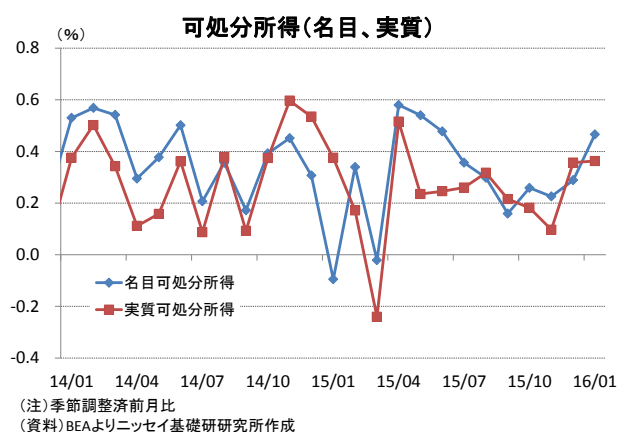
個人所得の内訳をみると、利息・配当収入が前月比+0.5% (前月: ▲0.4%) と前月のマイナスからプラスに転じたほか、賃金・給与が+0.6% (前月: +0.2%) と前月から伸びが加速した。とくに賃金・給与は 15 年 5 月 (+0.7%) 以来の高い伸びとなっており、雇用統計の時間当たり賃金の伸び加速が明確となっていることと併せて考えると、労働市場の回復が漸く賃金・給与の伸びに波及してきた可能性を示している (図表 2)。

一方、個人所得から社会保障支出や税負担などを除いた可処分所得 (前月比) は、名目値が+0.5% (前月: +0.3%)、価格変動の影響を除いた実質ベースも+0.4% (前月改定値: +0.4%) と、堅調な伸びを示しており、今後の消費堅調が期待できる (図表 3)。

(図表 2)



(図表 3)

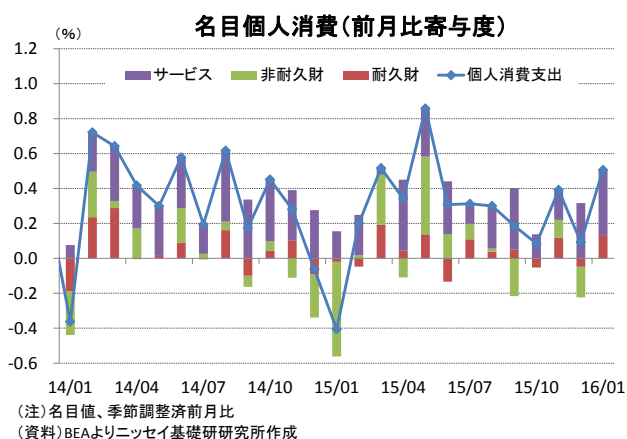


4. 消費動向:自動車・自動車部品が持ち直し

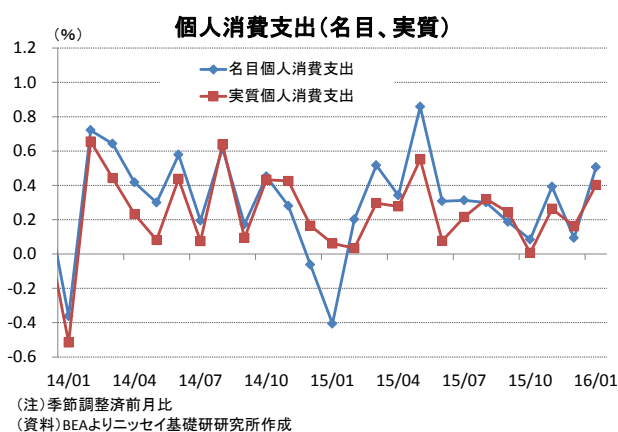
個人消費は、財消費が前月比+0.4% (前月: ▲0.7%) と前月の大幅なマイナスからプラスに転じた。財消費の内訳をみると、耐久財が+1.2% (前月: ▲0.5%) と前月から大幅なプラスに転じるなど消費を牽引した。とくに、自動車・自動車部品が+2.2% (前月: ▲2.5%) と前月の反動もあって大幅な伸びとなったほか、家具・家電も+0.5% (前月: +0.4%) と伸びが加速した。一方、非耐久財は、食料・飲料が+1.0% (前月: ▲0.3%)、衣料・靴が+0.5% (前月: ▲0.3%) と、前月から改善したものの、ガソリン・エネルギーが▲5.1% (前月: ▲5.1%) と前月に続いて大幅な

マイナスとなったことから、非耐久財全体では前月比横這い（前月：▲0.8%）とマイナス幅は縮小したものの、横這いまでの改善に留まった。最後にサービス消費は前月比+0.6%（前月：+0.5%）となり、小幅ながら前月から加速した。外食・宿泊サービスが▲0.4%（前月：+1.4%）とマイナスに転じたほか、娯楽サービスも前月比+0.2%（前月：+1.6%）と伸びが鈍化する一方、住宅・公共サービスが+1.1%（前月：▲0.2%）とプラスに転じた。

(図表 4)



(図表 5)

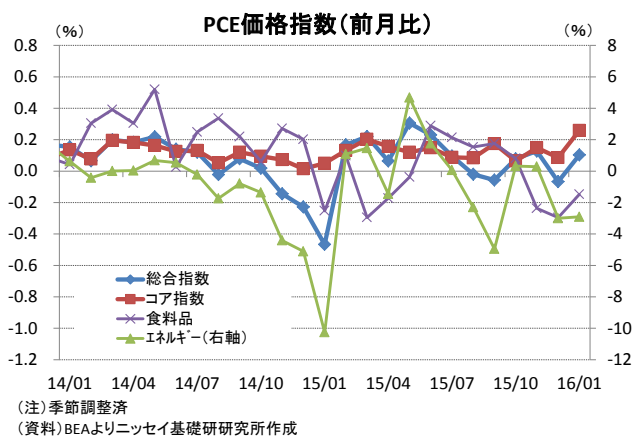


5. 価格指数: エネルギー価格の下落が持続

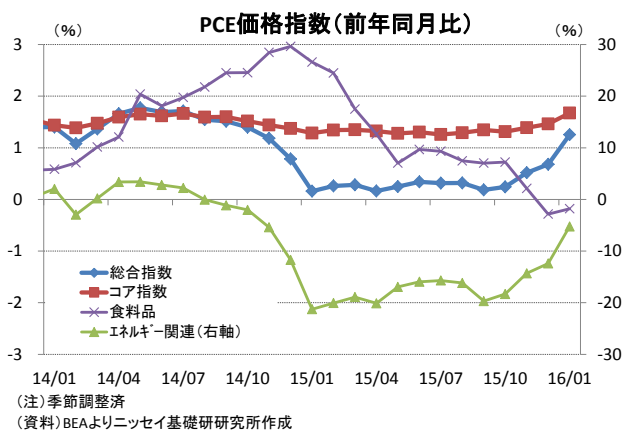
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲2.9%（前月：▲3.0%）と2ヵ月連続で大幅なマイナスとなった（図表6）。一方、食料品価格指数は▲0.2%（前月：▲0.3%）と、こちらも3ヵ月連続のマイナスとなった。

最後に前年同月比では、エネルギー価格指数が▲5.2%（前月：▲12.4%）と、マイナスとなったものの14ヶ月ぶりに1桁のマイナスに縮小した（図表7）。もっとも、原油価格は16年に入って下落が加速しているため、来月以降再び2桁のマイナスへ拡大することが見込まれる。食料品価格指数は、▲0.2%（前月：▲0.3%）と、こちらも2ヵ月連続でマイナスとなった。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。